

令和6年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

英語科 (学習室)

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析 (授業改善・評価)	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1年	○身の回りのものや日常の動作を表す単語や表現を理解している。 ▲発音やスペリングに課題がある。	語句や文法の反復を行うことができるよう暗唱やライティングを帯学習等で取り入れるとともに、定期的な小テストを実施する。	1年	○現在や過去など時制に応じて動詞を使い分けることができる。 ▲発音やスペリングに課題がある。	帯活動を継続的に実施するとともに、段階的な小テストを取り入れていく。	・帯活動を通して、発音およびスペリングの定着を図る。
	2年	○ある程度の量の文章を正しい発音で朗読できる。 ▲文法や語彙の定着に差がある。		2年	○比較表現や一定期間継続していることについて、正しく書いたり情報を読み取ったりできる。 ▲文法や語彙の定着に差がある。		・授業や単元ごとに小テストを実施することで、細かな習熟度を確認する。
	3年	○他の国の言語や平和について書かれたある程度の量の文章を、正しく読み取ることができる。 ▲文法や語彙の定着に差がある。		3年	○仮定法や間接疑問文を用いた文章を正しく理解している。 ▲文法や語彙の定着に差がある。		・単元テストの実施により、習熟度を確認するとともに基礎の定着を図る。
思考・判断・表現	1年	○自分のことや身近な人に関する基本的な情報を表現することができる。 ▲具体例や根拠などを加えることに課題がある。	より実生活に即したテーマを設定するとともに、書いたり話したりする表現活動を毎時間取り入れ、抵抗なく言語活動に臨むことができるようにする。	1年	○身近な人や自分が住んでいる町について紹介することができる。 ▲文章の構成の仕方に課題がある。	目的・場面・状況設定をより実生活に即したものにし、パフォーマンステストに向けて少しずつ積み重ねることができるようにする。	・生成AIを活用し、文章校正をより細やかにを行い、パフォーマンステストに臨めるようにする。
	2年	○自分の将来の夢について、具体例や理由を含めて表現することができる。 ▲書くことができるが話すことに課題がある。		2年	○自分が行きたい国について紹介したり、人気調査に基づいてレポートを書いたりすることができる。 ▲練習量に個人差がある。		・生成AIを活用し、文章校正および発音のチェックを行い、授業以外の時間にも練習に取り組みめるようにする。
	3年	○読み手や聞き手のことを考えて、おすすめの曲や映画について、表現することができる。 ▲分量について課題がある。		3年	○詩を書いたり、町に必要なものを考えてディスカッションを行ったりできる。 ▲分量について課題がある。		・生成AIの活用に加え、授業ごとに文章を作成し積み重ねることで、単元末のパフォーマンステストに臨めるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	1年	○授業中に積極的に発言し、理解を深めることができる。 ▲提出物の取り組み状況に課題がある。	提出物や単元テストに関して、授業の進捗状況に合わせて臨機応変に期限や日時を設定し、無理なく取り組めるようにする。また、ペアワークやグループワークを生かして、抵抗なく発言する場を設けるようにする。	1年	○積極的に発言したり、クラスメイトと話し合ったりして理解を深めることができる。 ▲提出物の取り組み状況に差がある。	授業の進捗状況に合わせて提出物の期限を設定する。ペアやグループを変え、たくさんの生徒と交流し学び合える場を設定する。	・年度当初に、ワークの取り組み方や学習方法について一斉に確認し、それぞれの進捗で学習できるようにする。
	2年	○ペアワークに積極的に取り組む。 ▲単元テストに向けた取り組みに差がある。		2年	○ペアワークやパフォーマンステストに積極的に取り組む。 ▲提出物や単元テストに向けた取り組みに差がある。		・ICTをより積極的に活用し、自分に合うやり方で学習を進めることができるようにする。
	3年	○ペアワークに積極的に取り組む。 ▲特定の生徒が授業で発言している。		3年	○ペアワークやグループワークに積極的に取り組む。 ○特定の生徒のみが授業で発言している。		・発問を工夫し、生徒が積極的に発言したり、ペアワークに取り組んだりできるようにする。
研修課題 (キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業	・ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、協力して学習に取り組めるようにする。 ・定期的な小テストなどの実施により、自分の理解度を確認することができるようにする。		・ペアワークを積極的に取り入れることができた。 ・習熟度に合わせて、小テストの範囲を狭めたり広めたりするなど、考慮する必要がある。	・パフォーマンステストの際に自己評価を取り入れ、自分の理解度を確認することができるようにした。		・ペアワークやグループワークを継続して取り入れることができた。 ・パフォーマンステストの目的・場面・状況設定をより実生活に即したものにしている。	・生成AIなどを含むICTを積極的に活用したことにより、より充実したパフォーマンステストを行うことができた。今後、目的・場面・状況設定などにもICTを活用していく。